

令和 4 年度 学校教育目標	教職員の信頼と協力を基調とし、一人一人の生徒に人権の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒の育成を目指す
----------------	-----------------------------------------------------------

本年度の重点			年度末評価
	重点目標 及び 指標	重点的取組	評価 ○成果 ◆次年度に向けた方向性・改善点
子どもの「学び」に関すること	重点目標 特別な教育的支援の視点を重視したわかる授業、主体的に学びに向かう効果的な学習指導による確かな学力の向上 指標 <学校生活アンケート> ◆「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」について、肯定的な回答をした生徒の割合【70%以上】 ◆「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」について、肯定的な回答の割合【80%以上】	○わかる授業づくりの5つのポイントを意識した授業、学習評価に基づく指導と評価の一体化を推進するため、各学期に2回ほど教科主任会や教科部会等で研修を実施する。 ○GIGA端末を活用した、1人1人の理解状況や能力・適正に合わせた、個別最適な学びを推進するため、情報教育推進部会が授業支援、および授業提案を行う。 ○昨年度のGIGAスマートスクール事業の取り組みを踏まえて、教職員のICT活用スキルの一層の向上を目指す。	A ○全ての教員が、積極的に授業でGIGA端末を活用し、特に効果的な使い方を職員間で共有しながら、各教科、各学年での使用の幅を広げたことで、教員・生徒ともGIGA端末を効果的な活用を身につけることができた。このことは、教員のICT活用指導力調査結果からも明らかになった。 ◆次年度は、わかる授業づくりの5つのポイントを意識した授業、自分の考えを積極的に発信し意見交換を伴う授業、現行の学習評価に基づく指導と評価の一体化をふまえた授業をより推進するため、メンタリング教員を活用した授業を伴う校内研修及び、研修図書の実践等に取り組んでいく。
子どもの「心の育ち」に関すること	重点目標 自他を大切にす優しい心もち、豊かな人間性を育てる教育の推進 指標 <学校生活アンケート> ◆「自分にはよいところがある」について、肯定的な回答をした生徒の割合【70%以上】 ◆「先生や友達はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について、肯定的な回答をした生徒の割合【80%以上】	○考え、議論する道徳を推進し、よりよい生き方について考える指導を実践する。 ○生徒会主体の取組「心に響く挨拶～高見中に笑顔の輪を～」について、教職員も率先垂範する。 ○5月に生徒実態調査(学力実態【国数】・生活実態・セルフエスティーム【自尊心】)実施し、生徒の実態を把握する。また、経年比較を行う。 ○人権教育部が行う研修会を8月と1月に実施する。ここでは、全職員が生徒指導に関わるレポートを作成して交流を行う。	B ○5月に生徒実態調査実施し、全職員で調査結果を共有した。さらに、人権教育部が行う研修会を8月と1月に実施して、生徒の豊かな人間性を高めていくための手だてを共有して、高めていくことができた。「先生や友達はあなたの…」アンケートで、肯定的な回答の向上が見られたことも取り組みの成果である。 ◆「自分にはよいところがある」について、中間評価で目標を達成することはできたが、全国平均より若干低い数値となった。このことについて、生徒は読書や勉学に意欲的に取り組むが、成績等に関する自己評価が低いことが影響しているのではないかと分析している。したがって、授業改善に努めるとともに自信をもたせ自己肯定感を高める心の教育を重視し、ウィズコロナの中での学校行事等の在り方を工夫するなど、生徒が達成感や充実感を味わうことができるようにしていく。
子どもの「体力」に関すること	重点目標 健やかな体をつくる指導の充実、体力の向上 指標 <学校生活アンケート> ◆「運動やスポーツが好き」について、肯定的な回答をした生徒の割合【80%】 ◆「学校の体育の授業以外に、運動を1週間で合計60分以上行っている」の肯定的な回答をした生徒の割合【85%以上】	○運動に対する関心意欲を高めるために、感染防止対策を徹底しながらクラスマッチ等のスポーツ行事の実施、部活動への参加を促進する。 ○保健体育科では、運動が苦手な生徒の自己肯定感やスポーツへの興味・関心の向上を図るために、GIGA端末を活用した学び合う学習を行う。 ○保健体育科の準備運動では、持久力を高めるランニングや筋力を高めるジャンプアップ運動を行う。また、単位時間あたり25分以上の運動時間を確保する。	C ○運動に対する関心意欲を高めるために、感染防止対策を徹底しながらクラスマッチ等のスポーツ行事を実施して、生徒に達成感や充実感を感じさせることができた。また、3学期には「プレイキン出前授業」を実施し、保健体育科で扱われないスポーツに触れる機会をもつことで持久力や筋力アップへの意識を高めることができた。 ◆「学校の体育の授業以外に…」は目標達成に至らなかった。次年度は、保健体育科で引き続き運動が苦手な生徒の自己肯定感やスポーツへの興味・関心の向上を図るために、GIGA端末を活用した学び合う学習を通して、健やかな体をつくる指導の充実を図る。 ◆保健体育科の授業において、1単位授業ごとに生徒が達成感や充実感を味わうことのできる目標(めあて)を設定し、授業の前夜で運動が楽しいと感じる経験を積み重ね、運動やスポーツに親しみ、学校外での運動習慣を身につけさせる。
長欠・不登校対策に関すること	重点目標 会いたい友達・先生、学びたい授業、明日も楽しみな高見中の実現 指標 <学校生活アンケート> ◆「学校に行くのが楽しい」についての肯定的な回答をした生徒の割合【85%以上】	○教職員が生徒1人1人に目を向け、明るさや元気を引き出すあいさつや声かけをする。また、日常的なふれあいを通して、いじめや心の悩みなどの早期発見、解消に努める。 ○1人1人が活躍できる当番活動・係活動の充実を図り、自他のよさや可能性を認め合う信頼関係を創る。 ○週に1度の生徒指導委員会、月例の特別支援ケース会議では、学年・学級の取組状況等を報告・確認する。同日に終礼を行い、全職員で状況と課題を確認する。	B ○コロナ対応が続く中、年間を通じて教職員が生徒一人一人に目を向け、明るさや元気を引き出す挨拶、声かけ、活躍できる当番活動・係活動の充実等を図ってきた。その結果、昨年度との比較では上昇傾向にあり、全国・県の平均を若干上回っている。 ◆本年度の指標で掲げた目標数値(85%以上)にあと一步の状況である。今後さらに肯定的な回答が増加するよう、ステップアップルームの効果的な活用や、生徒支援加配・養護教諭・SCとの連携を一層進めるとともに、次年度に向けて改善すべき点を再度検討し、具体的な方策を探っていく必要がある。
業務改善に関すること	重点目標 ワークライフバランスの推進 指標 ◆1か月の時間外勤務が45時間以下の職員の割合【80%】 <学校評価アンケート> ◆「よりよいワークライフバランスの実現を目指して、業務の手順を見直したり、工夫したりした」についての肯定的な回答をした教職員の割合【90%以上】	○実施可能な定時退校日を設定し、管理職と職員相互による声かけを行う。 ○職員会議では、資料を事前配布したり、ICTで資料配付したりして、短時間かつ設定した時間を守ることを徹底する。 ○管理職による、計画的な年休取得を推進する。 ○教務主任が週日程表を作成し、教職員が見通しを持って業務に取り組むことができるようにする。また、毎月の職員会議では、教頭が日常の業務改善について振り返るように呼びかける。	C ○職員会議では資料を事前配布したり、ICT機器を活用して資料を配付したりして短時間かつ設定した時間を守ることを徹底することができた。また、教務主任が週日程表を作成するなどして、出張や休暇取得対応の時間割調整や、行事に対応した臨時時間割の提案等を必要に応じて随時行い、教職員が見通しをもって業務に取り組むことができるようにするなど、効率的な校務運営を進めることができた。 ◆ただし、教職員の勤務時間等については年度当初の目標達成には至っていない。次年度も、引き続き情報共有・行動連携を徹底しながらより効率的・効果的な業務体制の推進を目指した取り組みを、全職員が共通理解し実践していくことが必要である。

「学校運営協議会委員」等からの意見を記入

・この3年間コロナ禍が続いたが、ウィズコロナとしての感染対策への意識も浸透し、学校行事・地域行事の在り方等もある程度共通理解が進み始めてきたと思われる。今後、改めて地域と学校との連携を大切に、中学生になった子どもたちが地域とかわる機会、地域の担い手であることを実感できる機会などを一緒に考えていきたい。

・登校の見守りや挨拶をあまりしなかった子どもも中学生になってしてくれるようになっていくのはうれしい。信号や横断歩道も注意しなくても多くの子どもたちが守っている。当たり前のことだが大切なこと。子どもたちを褒めてあげたい。

・本校校区の中学生は市民センターをよく利用してくれていて、友達と一緒に勉強する姿、熱心に自習する姿がみられる。他のセンターからも「うらやましい」との声をよく聞く。

・全国的な傾向として不登校が課題としてあげられている。もっとも多感な時期だけにはっきりとした原因や解決策が難しいと思われる。本校においても引き続き一人一人への細やかな対応をお願いしたい。